鹿児島県立鶴丸高等学校広報紙

好学愛知
自律敬愛
質実剛健

鶴信

第７０号　H24．3．23

鹿児島県立鶴丸高等学校
〒890-8502　鹿児島市薬師二丁目１番１号
TEL 099-251-7387 FAX 099-255-3433
http://www.edu.pref.kagoshima.jp/sh/Tsurumaru/top.html

４月の行事予定

4　月		
1	日	
2	月	学年始休業日
3	火	学年始休業日
4	水	運営委員会・第1回職員会議 各課会議・学年会・教科会
5	木	学年始休業日
6	金	**新任式　前期始業式**　中掃除 **復習考査（2・3年）**　写真撮影(2・3年)
7	土	
8	日	
9	月	**第66回入学式** 写真撮影(職員)
10	火	対面式　1年オリエンテーション(1) **新入生テスト　復習考査（2・3年）**
11	水	1年オリエンテーション(2) 胸部検診(1年・職員) 第2回職員会議　学校安全の日
12	木	1年オリエンテーション(3) 職員研修(心肺蘇生)
13	金	1年オリエンテーション(4)　写真撮影(1年) 部活動紹介 心臓検診　部顧問会 午後5分短縮
14	土	宅習時間調査
15	日	宅習時間調査
16	月	全校朝会　1年オリエンテーション(5) 甲鶴戦合同LHR　5分短縮 体育保健合同委員会
17	火	健康診断(3年)　定期教育相談
18	水	健康診断(1年)　定期教育相談
19	木	**創立記念日**　創立記念式典 記念講演　健康診断(2年)　定期教育相談
20	金	**甲南鶴丸スポーツ交歓会**　定期教育相談
21	土	定期教育相談
22	日	定期教育相談
23	月	学年朝会 体育保健合同委員会 いじめ問題を考えるLHR　5分短縮授業
24	火	身体測定 眼科検診(2年)　5分短縮授業
25	水	新体力テスト(2年) 尿検査(1次)　5分短縮授業
26	木	新体力テスト(1年) 尿検査(1次) 実力考査時間割発表　5分短縮授業
27	金	**一日遠足**　5分短縮授業
28	土	いじめ問題を考える週間
29	日	昭和の日　いじめ問題を考える週間
30	月	振替休日　いじめ問題を考える週間

鶴っ子たちの旅立ちを見送る

3学年主任　水迫　達郎

平成23年度が終わる。生徒諸君は新たなステップに向けて、ある者は新たな希望に満ちて、またある者は不退転の決意を胸に、次なる目標を実現せんとして闘志をかき立てている。不満の残る一年に終わった者は、何が足りなかったか、目を逸らさずに自分の姿を見つめなおして行動につなげられればいい。充実した一年を過ごせた者はさらに階段を一歩上るべく、挑戦者としての気持ちを失わないように心して進まなければならない。

３学年の主任として、３年生を中心に、つぶさに生徒・職員の動きを見せてもらってきたが、いずれの個人も自分の持てる力を十二分に発揮すべく懸命の努力を重ねてきたと実感している。心から拍手を送る。行事の一つひとつを振り返ると、集団の心と知恵と力とを振り絞って、石垣の石を積み上げるようにして卒業まで貴重な時間を積み重ねてきたと感心する。そのことは、１、２年生からの賞賛の言葉や眼差しからも十分に伝わってくる。無我夢中で走り抜ける卒業生たちの姿は、見る者たちに鮮烈な印象を植え付け、大きな励ましを与えてくれた。

しかしながら、自分のもつ無限の可能性を遺憾なく引き出してくれる舞台に立つ（＝進路目標の達成）には想像をはるかに超える努力が求められる。第三者には精一杯踏ん張ってきたと思えても、自分の手にした収穫とこれまで重ねてきた努力の密度に十分な納得度を得るに至らず、自分磨きに再出発する者もいる。また、生徒と同じベクトルで具体的なサポート態勢に入る先生もいる。視点を共有し、さらなる高みを極めんと厳しい道に歩みを進めゆく師弟の姿には毎年ながら頭が下がる。

さてここで、日常生活から少し視線を離して鶴丸高校の在りようを考えてみる。いくつかの視点から我らが母校について考察できるが、まずは精神性である。鶴丸高校は県下一の進学校であることは自他共に認めるところである。難関大学や学部を目指す生徒たちが集う鶴丸の存在は中学生であれば十分認識している。旧制一中・一高女の時代から鹿児島のナンバーワンスクールであり、多くの若人たちが憧れ、目指す場である。鶴丸の動きは大学進学にしても、教育活動の展開にしても県民の注目も集める。鶴丸は県内のフラッグシップ＝旗艦の役割を担っているのだ。旗艦の動きは味方にとっては頼もしい目標であり精神力を支える誇り（＝プライド）の代名詞でもある。そして、操舵手たる指揮陣と船を前に進める乗組員たちが呼吸を合わせた時、周りを「あっ」と言わせる見事な働きができる。しかし、その域に至るには血と汗のにじむ努力の積み重ねという裏打ちがあることを忘れてはならない。すなわち、勝負を決めるその数時間のために凝集された我々の努力が栄光を生むのである。

もう一つの観点は、鶴丸が創設されて以来多くの匠たちによって醸し出されてきた校風である。鶴丸創設期の生徒会長が新入生歓迎の短い挨拶として、「鶴丸は勉強するところである。」と述べて以来、鶴丸生たちは勉強することの価値を高らかに口にし続けてきた。ややもすると自分の目指すところのものを公言することが憚られたり、ためらわれたりするのが世の常であるが、鶴丸では自分の意思をストレートに表明することを良しとしてきた。互いを尊重しあい、互いに競い合う環境が成せる技である。この輝かしく美しい風土は目に見えない鶴丸という土蔵の中で脈々と受け継がれてきている。沢山の若き青年たちが鶴丸入学を目指すのは、この独特の土蔵とはどのようなものなのか体現し具現化につなげたいがためなのである。しかるに、人間とは身勝手なもので、いったん土蔵の中に足を踏み入れ薄暗い中を進んでいく間に、古さばかりに目が行き、蔵の持つ不思議な力と自身が三年後どれほど見事な味わいを出せるようになるのか、見えなくなってしまうこともある。

生徒のみならず教師も陥ってしまうこの落とし穴に易々と嵌ってしまわないためにも、自らが置かれた場の価値を正しく認識し、自らを大きく成長させることがどれほど大切であるか、改めて自覚を深めたい。

さて、最後まで飛び切った時に得られる無上の喜びと本物たちのみが集まる場を求めて、今年も鶴たちは旅に出た。さあ、いよいよ私たちがＶ字飛行の旅に出る時が刻一刻と近づいてきた。

第63回卒業式

３月１日（木）、第63回卒業式が挙行され、３１０名の卒業生が学舎を巣立っていった。

式辞では学校長から「揺れ動く社会の中で、君たちの船出には少し特別な覚悟が求められている。その中で、理想を失わず課題の解決を諦めないこと、人間に対する信頼を手放さないこと、覚悟を持って生きることが、これからの人生に必要なことではないだろうか」というメッセージが贈られた。「先輩方の力強いはばたきが、震災を始めとする今日の日本や世界を覆う暗雲を吹き飛ばし、光をもたらしてくれると私たちは信じています」という、在校生代表、山口舞さんの送辞に対して、「これから、私たちはまだ見ぬ世界へと足を踏み入れていきます。一人一人が様々な希望を持ちつつ、不安定な世の中に光を灯せるような人材になるべく、一歩一歩明るい未来への道を切り拓いていきたいと思います」と卒業生代表の植之原佳代さんが答辞を締めくくった。

世界に羽ばたく若鶴よ。「学ぶものをゝしく直く」、そして爽やかに人生の苦難を乗り越えていってもらいたい。

防犯教室

３月19日（月）、鹿児島西警察署勤務でスクールサポーターとしてご活躍されている、村上光徳さんを講師にお招きして防犯教室（薬物乱用防止教室）が実施された。村上さんは、薬物乱用の実態とその防止について、具体的な事例や映像を用いながら、身近に潜んでいる薬物の魔の手から自分の身を守るために、危険を予測し、回避する能力を身に付けることの大切さと、挨拶や身なりなど、日常生活の中で気をつけていくべきことについて、詳しく話してくださった。村上さんがおっしゃった、「自分の身の上に起こる大方のことは、自分の性格や癖が影響を及ぼす」ということをしっかりと心に刻み、正しい知識を身に付け、互いを思いやることのできる豊かな人間関係を築き、生きていこう。

保護者による学校評価の結果報告

昨年12月、学校運営や教育活動について、成果や問題点を明らかにし、保護者のニーズを把握することでよりよい教育活動を展開すると共に、保護者の皆様に学校への関心・理解を深めていただくという目的のもと、学校評価アンケートが行われました。保護者の皆様からいただいたご意見・改善策を参考に、来年度に向けて検討して改善を図りたいと思います。アンケート結果につきましては、本校ホームページに掲載してありますのでご覧ください。

平成24年度異動発表

平成24年度定期人事異動が発表されました。本校から転退職される先生方は、次の通りです。

枇杷	雄二（事務長）	定年退職
立石	義和（数学）	川辺高校
長野	守雄（理科）	再任用退職
丸山	芳弘（芸術）	定年退職
遠藤	武夫（芸術）	松陽高校教頭
水迫	達郎（英語）	定年退職
池尻	弥生（英語）	伊集院高校
原田	安代（養護）	串木野高校
有村	浩二（事務）	出水高校事務次長
杉元	伸行（保健体育）	非常勤退職

新天地でのご活躍を心よりお祈り申し上げます。

正門のイワツツジと陽光桜